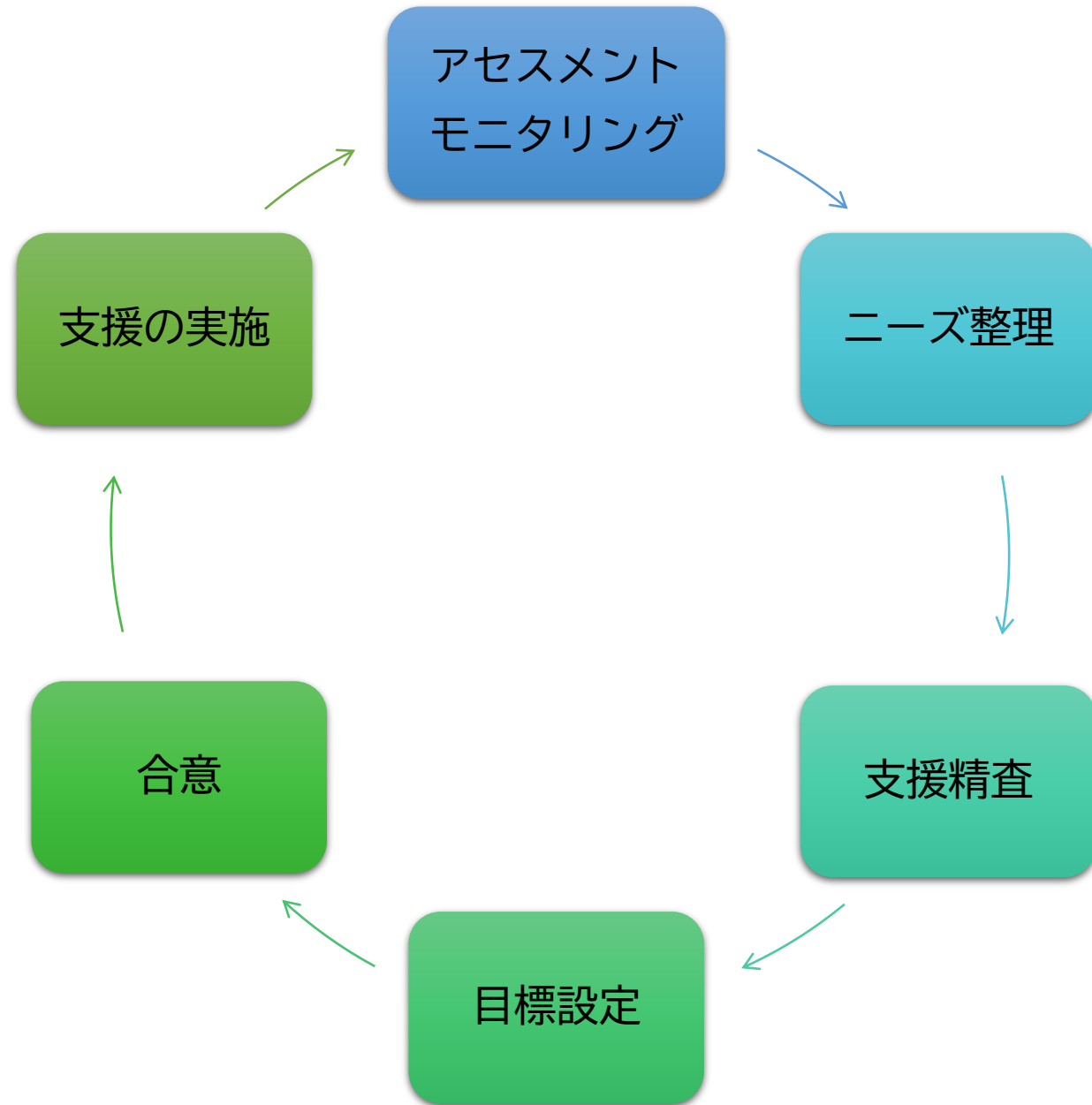


# 個別支援のプロセスについて

令和4年度愛媛県サービス管理責任者等更新研修



## アセスメント

主訴、現状、経緯、ストレングス、配慮事項の把握

面談技術  
科学的、論理的把握

## ニーズ整理

- ①ニーズ一つ一つに基づいた整理
- ②ニーズを実現するのに役立つストレングスの洗い出し
- ③ニーズを実現することを妨げる事柄の推測

本人視点への移行

## 支援内容精査

- ①妨げになることへの解決策を見つける
- ②ストレングスを活用する
- ③多種多様な資源を活用（連携）する

最善の方法は何か、だけを  
考える

## 目標設定

- ①本人が確信を持てる目標達成時期の設定
- ②ニーズ毎の段階を追った目標設定

現実的なスケジュール

## 合意

- ①本人が理解できる方法
- ②支援に関わるもの全員が合意すること

常に記憶

# モニタリング

- 自分たちの支援や配慮、環境が有効であったかどうかを評価することが目的です。
- もし目標を達成しているならば、それは本人の功績です。
- もし目標を達成できていなければ、それは支援者の責任です。

なぜうまくいったのか  
なぜうまくいかなかったのか

原因分析

NEXT STEP

## 置かれた場所で咲きなさい

×「障害の在る人よ。あきらめなさい。ここで咲く努力をなさい。」

私たちが良かれと思ってしている支援が、彼らにはこのように映ることもあります。

# PDCAサイクルは、一つの物語になっていますか？

事業所

計画作った。

個別支援会議した。

毎日支援した。

モニタリングした。

計画をちょっと変えた。

利用者

単なるイベント、  
サイン会

支援て何？  
介護？  
作業提供？  
お勉強？  
お説教？

どうですか？  
としか聞かれない  
知らぬ間に採点されて  
いる

単なるイベント、  
サイン会

こども

だいたい親とし  
か話さない

????

だいたい親とし  
か話さない

????

# アセスメント       なんのためにするのか？

## 1. 利用者の3つのニーズをわかる(受け止める)

- 本人が表出した、願い、希望、解決したいこと。
- 本人の命を守るために必要な事。
- 新たなニーズが生まれるために必要な事。

## 2. 利用者の3つのニーズを妨げる要因を理解する

# 本人主体の個別支援計画(案)作成

□職員のための 利用者対応マニュアルになっていませんか？

□事業所内で完結できる範囲のニーズしか取り上げていない、なんてことはありませんか？

□本人が 何をすればよいのかが わかる計画になっていますか？

ノーマライゼーション8つの原則を  
絶対守ってください

- ・一日の普通のリズム
  - ・一週間の普通のリズム
  - ・一年の普通のリズム
- } 自分で決めた
- ・あたりまえの成長の過程をたどること
  - ・自由と希望を持ち、周りの人もそれを認め、尊重してくれること
  - ・男性、女性どちらもいる世界に住むこと
  - ・平均的経済水準を保証されること
  - ・普通の地域の普通の家に住むこと



# 同意(個別支援会議)

計画案説明会になっていませんか？

意見交換ができる会になっていますか？

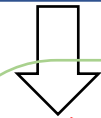
本人が理解できる方法で説明していますか？

# 支援の実施

- 職員は支援計画を頭に入れて、処遇してありますか？
- その時々に変化する必要な配慮が提供されていますか？
- 記録を正しくとっていますか？  
日々の記録は日々のモニタリング(アセスメント)です。
- 支援は利用者にとって安全に試行錯誤できる機会です。  
支援によって不安を増加させてはいけません。

今行われている「障害児者支援」と呼ばれているものは

- 対話による解決
- 気づきの促しによる解決
- 正解を示し行動させることによる解決



こんな会話が日常的に行われていませんか？

「作業に全然集中できないんです」

「睡眠時間は？ 薬は？ 何か悩みがあるの？」

(本人に課題があるという断定)

「作業に全然集中できないんです」

「作業が難しいのかな？ 席が良くないのかな？」

(環境に課題があるという断定)

「作業に全然集中できないんです」

「そういう時は休みましょう。軽く運動してみましょう」

(問題から逃避させればよいという断定)

これで解決したことがありますか？

もし解決できたなら、それは放っておいても自己解決できる人だからです。

もし解決できなかったら、それは支援の仕方が悪いからです。

□対話による解決 → カウンセリング等

□気づきの促しによる解決 → 認治療法 コーチング等

□正解を示し行動させることによる解決 → 認知行動療法、SST、ティーチング等

これらは専門家が行わないと失敗します。

熱意と努力と根性と愛情で何とかなると思わないでほしい。

# よりそうべきは ライフストーリー

生まれてから死ぬまでは ひとつながりの 物語になっています。  
療育の一場面、サービス利用時の一場面だけを見て支援を考えても  
それはとても的外れなことになるでしょう。  
18歳までは学校等のステージはありますが、18歳を越えたらそこには  
フリーハンドで何でも描いてよい、白紙のステージしかありません。  
彼らが描くことについて、私たちはバックアップするのが役割だと思います。